

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0555 ◆◆◆

19/10/16

【 米中貿易問題、先週末に「部分合意」したが…… 】

10-11 日に実施した米中閣僚級協議で貿易問題が「部分合意」された。当初は、「部分合意を認めない」と発言していたトランプ米大統領だが、合意決定後には掌を返して称賛。「わが国の歴史上、偉大な農家に対する最大かつもっとも素晴らしい合意」ーなどと自画自賛していたのも束の間、早くも両国のあいだには認識の齟齬が見受けられ、隙間風が吹き始めているようだ。そこで今回の当レターでは、米中部分合意の経緯と、今後の見通しについて以下でレポートしてみたい。

◎「米中蜜月」は早くも終了、土壇場での「ちゃぶ台返し」にも要注意

先週実施された「米中貿易協議」は、報道が二転三転。それを受けた相場も右往左往するという落ち着きのないう動きをたどっている。

先週に両国が合意した経緯を簡単に振り返ると、7-8 日に実施された「次官級協議」を前にブルームバーグが条件付きながら「中国は部分的な合意も受け入れる方針」と報道。市場の期待感をまずは高めていたようだ。しかし、実際の協議開始後は好悪両サイドの情報が錯綜する展開に。たとえば、香港英字紙が「次官級貿易協議で進展はなかった」としたうえで、「閣僚級協議は 10-11 日の 2 日間ではなく 1 日のみ開催の可能性」と指摘。ネガティブな報道が一時先行する局面も観測されていた。

そののち、閣僚級協議に参加した中国の劉副首相が「通商協議で双方が重要とみなす問題で合意を目指す意向を持っている」と発言。また、トランプ氏による「中国は非常に素晴らしい。我々は中国と合意できるか目にするようになる」とのコメントも観測されるなか、実際に米中が実施していた閣僚級協議で部分合意となった。なお、会談後に米ホワイトハウスは「第一段階の合意に達した」としたうえで、15 日に予定していた対中関税引き上げの先送りを発表している。

こうした動きが好感され、ドルの買い要因となっていたことは間違いなく、先週のドル/円相場は目先安値から 2 円程度の上昇となっていた。がしかし、そんな「米中蜜月」はホンの数日だけ。週明けには早くも終焉を迎えつつある感を否めない。

キッカケとなったのは、またもやトランプ氏の発言で、具体的には「中国は大量の米農産物をすぐに買い始めるべき。今後 3-4 週間かかる署名まで待てない」との内容になる。また、その後もムニューチン米財務長官から「詳細を詰め文書化が必要な項目が数多くある」と指摘したうえで、「合意がなければ 12 月に対中関税は発動される見通し」との発言も聞かれている。やはり、年内一杯は予断を許さず、警戒感をもって臨んで損はない気がしないでもない。

本稿執筆段階では、中国サイドがトランプ氏やムニューチン氏の発言に不快感を示したり、強く反発していたりする旨は聞かれていない。ただ、それでもブルームバーグが関係者の話として、中国側が「第一段階の合意案の調印を前に、さらなる協議を要望している」と報じるなど、米国側にある種の不信感を抱いているフシもうかがわせている。

どちらが口火を切るのかは不明だが、先日決定した部分合意は文書でキチンと署名されたというわけでもないだけに、土壇場での「ちゃぶ台返し」、元の木阿弥に陥る可能性を必ずしも否定出来ないだろう。

その場合の為替をはじめとする金融市場の反応にも要注意だ。マーケットは楽観論に傾きすぎるくらいがあり、やや行き過ぎた期待感が織り込まれている状況だけに、反動が一気にでることもありそう。巻き戻しの動きから、ドル/円だけでなく円は全面高となっても不思議はないような気もしている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

